

第2回学校評議員会 議事録

日 時 令和8年2月3日（火） 13：30～15：05

13：30～14：10 授業参観
14：20～15：05 学校評議員会

場 所 男鹿工業高校 会議室

参加者 学校評議員（2名）

櫻庭 直美 様 石川 敦 様

（欠席者） 清水 隆成 様 菊地 修 様 畠山 千夏子 様

男鹿工業高校（14名）

森元 弘毅（校長）	須田 和仁（教頭）
木村 哲也（事務長）	藤原 一成（総務主任）
浅沼 千愛（教務主任）	柴田 久寛（生徒指導主事）
高橋 保彦（進路指導主事）	土居 耕太郎（特別活動主任）
宇佐美 行毅（1年部主任）	齊藤 孝輔（2年部主任）
永井 敦子（3年部主任）	銀谷 萌（機械科主任代理）
猿田 英幸（電気電子科主任）	櫻庭 大観（設備システム科主任）

司 会 男鹿工業高校 須田 和仁 教頭

資 料	1 令和7年度 第2回学校評議員会資料	1 部
	2 令和7年度 あきた型学校評価	1 部
	3 令和7年度 保護者・教員・授業アンケート	1 部

議 事

1 開会

2 校長あいさつ

本会議への出席のお礼、本日の会で忌憚のない意見、提言を頂戴したい旨を伝えた。本校の重点目標を口頭で示し、その目標達成に向けた取り組みである「授業改善」、「地域貢献活動」、「統合校開設準備」の3点について説明した。

3 学校評価（須田 和仁 教頭）

（１）あきた型学校評価

<総務部>

合同避難訓練などの初めての試みを実施。来年度も熊に警戒し、危機管理を徹底。なお、合同避難訓練のニュース映像を視聴した。

<教務部>

授業改善重点事項を継続推進。今年度相互授業参観及び試行授業を実施。組織的な授業改善に繋がるよう来年度は他教科の教員間での授業参観を多く行う方針。

<生徒指導部>

あいさつ、時間厳守を生徒に徹底。

<進路指導部>

進路の早期達成に向けて進路ガイダンス等を実施し、自己理解の場を生徒に与えることで、就職・進学に対する意識を高めた。今年度の３年生は８割が就職、２割が進学という割合であり、現時点で就職・進学率１００％を達成している。

<特別活動部>

生徒会を中心に行事を運営し、校長の案により学校祭で同窓会とのコラボが実現。

<１年部>

人間性の成熟及び基礎学力の定着と進路指導による自己実現への意識の向上を図る。

<２年部>

インターンシップを通したキャリア教育により、進路の見通しを立てた。

<３年部>

進路実現のため丁寧な指導により進路達成率１００％を達成。

（２）保護者・教員による学校評価

<保護者>

学力向上のための授業や生徒指導については８割が肯定的意見であり、昨年からの上昇が見られる。要望への評価と力を入れて欲しいことについては更なる改善と向上に努める。学校評価の結果を踏まえ、学校教育活動の改善に取り組む。

<教員>

教員の年齢構成及び人手不足により、教員の適材適所の分掌配置ができていないことや研修の成果を発表する場がないことが課題である。

(3) 授業アンケート

<生徒>

授業の内容、教員の姿勢については概ね良好である。

<教員>

生徒の理解度に課題。教員の授業改善が求められる。

(2) 及び (3) のアンケート結果は本校ホームページに掲載。
「あきた型学校評価」は、評議員評価を得たのちホームページに掲載予定。

4 質疑応答・意見交換・提案

○ 櫻庭 直美 様

就職・進学率100%達成につながる取り組みについて

<回 答> 進路指導主事 高橋

工業高校という特質上3年間同じ学科の持ち上がりで、学科ごとに進路ガイダンスや企業見学、体験活動を行っていることから、自分が学んでいる分野の企業や特質を知ること、生徒の企業理解や自己理解につながり、進路を考えるきっかけになっている。また、企業前職場見学やオープンキャンパスに3年生全員が行っていることも大きな要因として考えられる。

○ 石川 敦 様

自分が在学していた時よりも大幅に生徒の人数が減っているが、少ない中でも授業に積極的な生徒が多いのが印象的であった。

仕事柄他の高校の生徒も見るが、男鹿工業の生徒はあいさつがしっかりしているので、これからも継続して指導を行って欲しい。

5 校長謝辞

6 閉会